

八尾市指定文化財 安中新田会所跡 旧植田家住宅 ニュースレター

NEWS LETTER

発行部数 3,000 部

旧植田家だより

KYU-UEDAKE INFORMATION

Vol. 32

2017年4月発行

平成28年度冬季企画展

昔のくらしの道具365日

連続講座・2016後期

「会所〜かいしょ〜」

連載コラム

「落穂拾い - 今東光の薫風 - (三十六)」



<http://kyu-uedakejutaku.jp/>

展示のご案内

— 平成29年度 春季企画展 —

植田家の
祈りと願い ～仏画と文書にみる
信仰とくらし～

2017年
4月28日(金)～7月10日(月)

休館日: 火曜日、5月1日(月)・8日(月)・10日(水) ※会期中一部展示替え(後期:6.7～)
[入館料] 一般200円、高校・大学生100円、中学生以下は無料



誰かと思えば
法然さん!
(浄土宗の開祖)

よく読ん
だー
梵字の文書だー!



八尾市指定文化財
安中新田会所跡 旧植田家住宅

〒581-0084 大阪府八尾市榑和町1-1-25 (指定管理者: NPO法人HCAL)
<http://kyu-uedakezaka.jp/> TEL 072-992-5311

平成29年度 春季企画展

「植田家の祈りと願い～仏画と文書にみる信仰とくらし～」

2017年4月28日(金)～7月10日(月)

多様な信仰と礼節を重んじた植田家の側面を仏画や古文書などから見ます。

※休館日はP15をご覧ください

Contents

- 4 平成 28 年度 冬季企画展
「昔のくらしの道具 365 日」
- 6 新年の装いと「こどものお茶会」
- 7 2016 年度
施設周辺写生作品展示 (ギャラリー)
- 8 連続講座・2016 後期
「会所〜かいしょ〜」(全3回)
- 10 旧家で楽しむ落語会
- 11 四会所だより (12) -鴻池新田会所-
- 12 なにわの伝統野菜栽培日記 ③②
- 13 桃栗三年柿八年、植田家住宅九年目
- 14 コラム「落穂拾い - 今東光の薫風 - (二十六)」
- 15 旧植田家住宅のご案内



表紙写真

せつくのぼり
《節句幟 (スサノオとヤマタノオロチ)》(部分)

高さ 945cm × 幅 96cm。節句幟は、現代の「鯉のぼり」のルーツとされる。植田家が所蔵する 3 本の節句幟の内の 1 本で、スサノオがヤマタノオロチを退治する場面が描かれている。関連記事と全体写真は、本誌 5 頁に掲載。



※『旧植田家住宅だより』のバックナンバーはホームページからダウンロードができます。
<http://kyu-uedakejutaku.jp>



「ひなまつり」の雛道具



「こどもの日」の五月人形



植田家の

春

夏

秋

冬

昔のくらしの道具365日

平成28年度 冬季企画展

2017年1月5日～3月5日



季節に応じた豪華な揚げ重



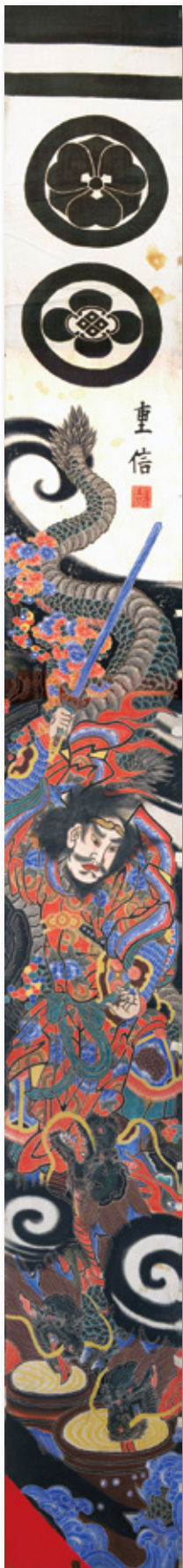
巨大な節句幟の展示

冬季企画展「昔のくらしの道具365日」

毎年三学期が始まる1月から、小学校三年の「昔のくらし」の単元にあわせて開催している本企画展では、「子どもから大人までが楽しい」をモットーに、毎回異なるテーマで様々な民具の展示を行なっています。今年「暦」を基に、一年間の各節目(季節)で使われた道具を取り上げ、旧植田家住宅ならではの生活の様子にもふれました。

私たちが毎日見ているカレンダーは「暦」ともいいます。その暦には、日付だけではなく、季節の移り変わりや様々な行事が書かれたものもあります。もともとは「日読み」が「こよみ」になったといわれ、日数を調べたり、その日がどのような日であるのかを知ることができます。

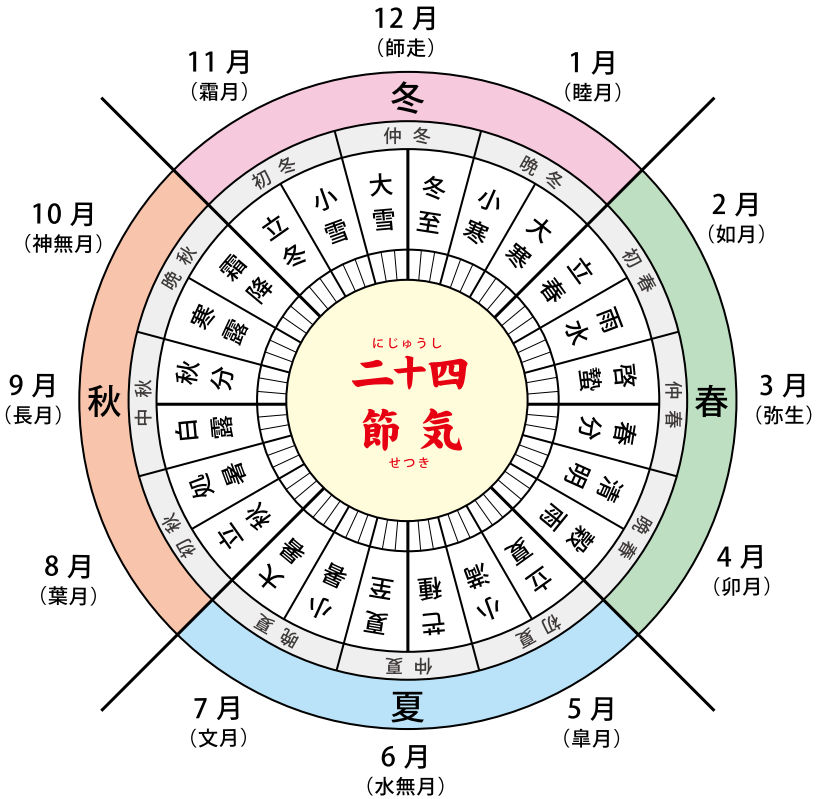
現在は「新暦」(太陽暦)と呼ばれる新しい暦を使っていますが、「旧暦」(太陰暦)の頃から、一年を24等分した二十四節気(にじゅうしせつぎ)が季節の目安としてあります。季節を分ける節分(立春)・立夏・立秋・立冬や、季節の真ん中を示す春分・夏至・秋分・冬至などは、今でもテレビのニュースなどで毎年取り上げられています。昔のくらしの道具に目



全長約9.5メートルの節句幟！
 (マンジークン約6人分※つけ耳を除く)



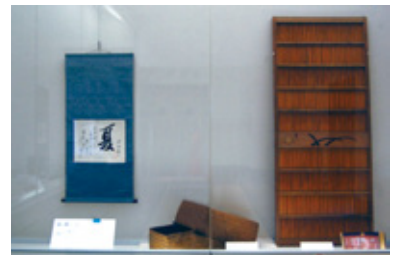
163cm



参考：平野恵理子『にっぽんの歳時記ずかん』(幻冬舎)



旅行などにも使えます。
 柳行李 (やなぎごうり)



夏の「衣替え」に行李と簾戸

を向けてみると、その一年の中には今とは
 変わらない「定番」の道具があることや、各
 時代・地域・家庭などの環境の違いや変化、
 道具の歴史が見えてきます。

祝いの多い春、気候の変化が激しい夏、
 行楽シーズンの秋、そして再び気候が大きく
 変化する冬には、それぞれ相応しい道具が
 あり、道具から季節を読み取ることもでき
 ます。今では使われなくなったものも多く
 ありますが、形を変えながら今に伝えられ
 たものには、日本の豊かな四季と人びとの
 暮らしの姿が目に見えます。

(旧植田家住宅学芸員 安藤亮)

新年の装いと「こどものお茶会」

前号（1月発行）の「植田家だより」で紹介できなかった話題ですが、年末の「おもちゃつき大会」を無事に終え、こしらえた鏡餅とともに旧植田家住宅は新年を迎えました。座敷では、当時から毎年飾っていたといわれる正月飾りと、お正月に相応しく福笑いとなりました。近年では、時代の流れもあり、童謡「お正月」のような正月らしい正月をあまりみかけなくなりましたが、ここ旧植田家住宅では、一年の季節が感じられる装いやイベントを各季節ごとに行なっています。ちなみにコマ回しはありますが凧あげと羽根つきは行なっていません。



正月飾り「海老（米俵）と鏡餅」



正月飾り（鎮宅霊符）と正月遊び



茶せんでお茶を点てます

新年最初のイベントでは、子どもを対象にした「こどものお茶会」を毎年開催しています。今年も地域の女性会の先生方をお迎えして、1月15日（日）の午前午後にかけて、計3回（各席15名）のお茶席を設けました。

新春といえども暦の上ではまだ寒い冬の気候。いつものお茶室も使いつつ、今回は少し暖かい座敷をメインにお茶会を行ないました。入室の作法からお点前の体験、抹茶の味など、大人でも普段なかなか味わえない貴重な時間を過ごし、参加者の子どもたちからは、季節にあつた適度な緊張感と新鮮な喜びを感じました。



座敷に設えられたお茶道具

新旧大和川や新田会所の風景を描く、

2016年度

施設周辺写生作品展示(ギャラリー)

●2017年1月5日(木)～1月30日(月)

2016年度

施設周辺写生作品展示(ギャラリー)

新年を迎え、最初の企画展「昔のくらしの道具365日」と同時開催した「施設周辺写生作品展示(ギャラリー)」は、毎年10月ごろから年末にかけて作品を募集しています。嬉しいことに、回を重ねることに常連となる参加者も増え、今回も8名の作品がギャラリーに展示されました。

テーマは「大和川および新田会所の風景」と固定ですが、それぞれの視点で魅力あるまちの風景や新旧大和川に縁のある場所が自由に描かれています。古民家がのこるまちなみ、駅周辺のレトロな工場跡や商店街、川の水と緑が調和した風情ある公園など、本当に力作揃いでした。またこれらの写生作品によって、郷土を知るだけでなく、旧植田家住宅のギャラリーは華やぎ、来館者の目を楽しませていました。

今年も秋季から年末にかけて募集予定の「ギャラリー展示」(今年度より名称が変更)に、この記事をご覧になった皆様も是非ご参加ください。画材は自由です。心のこもった作品をお待ちしています。



八尾駅前倉庫のレンガ壁



旧植田家住宅前の踏切風景



いろんなところに
会所あり☑

会所って何？

全然知らなかった

いっぺん見に行こか

会 所

—かいしょ—
(全3回)

●第1回(2017.1.8)

ひらのやしんでんかいしょ
平野屋新田会所



平成20年まで建物が現存。現在は米蔵、道具蔵、船着場石段跡などの遺構がのこる。

●第2回(2017.2.12)

かがやしんでんかいしょ
加賀屋新田会所



平成13年に大阪市有形文化財・史跡に指定され、大正時代に名付られた「愉園」は大阪名園の一つ。

●第3回(2017.3.12)

こうのいけしんでんかいしょ
鴻池新田会所



東大阪市に残る歴史的建造物のひとつで、会所敷地と建造物等は国の史跡・重要文化財に指定。

連続講座2016後期
「会所—かいしょ—」(全3回)

2016年度・後期の連続講座のテーマは「会所」。旧植田家住宅も安中新田の会所跡として八尾市の指定文化財に指定されていますが、そもそも会所とは何か、大阪には他にどのような会所があるのか。知らなければほとんど興味のない「会所」

について、知ってみると意外に面白い。そう思ってもらえるように企画された本講座では、「四会所だより」でも紹介中の三会所からそれぞれ講師をお迎えし、各会所にまつわる話を展開していただきます。

今回、講座を開催するにあたり、予想以上の反響があり、「会所」も徐々に注目されつつあることを予感しています。

第1回

「平野屋新田会所」

〜発掘調査の成果から〜

記念すべき連続講座の

第1回目は、講師に大東

市教育委員会生涯学習課

の黒田淳^{あつし}氏を迎え、会所の役割から深野

池の新田開発、そして平野屋新田会所の

過去・現在と今後について話をしてい

ただいた。とりわけ会所屋敷の解体の経

緯とその後については、世間一般の関心

事でもあり、黒田氏は当時の状況を詳細

に語られ、参加者はその想いと実情につ

いて深く知ることができた。

建物の解体に注目が集まる一方で、そ

の後の発掘調査の成果からは、現存する

他の会所屋敷では知り得ない周辺環境を

含む新田開発および会所の設置に関わる

事実が明らかにになったという。埋蔵文化

財という観点から「現在、建物が残って

いないからこそ伝えられるものも多くあ

る」といい、「平野屋新田会所跡」の保存と

活用が今後の大きな課題とされた。その

ための地域資源の発掘や地域連携の重要

性が最後に述べられ、講座を締め括った。



第2回

「加賀屋新田会所」

〜加賀屋新田開発の沿革

と新田会所の魅力〜

連続講座第2回目は、

大阪市住之江区の加賀屋

新田会所跡（加賀屋緑地）等の案内を務め

る「住之江のまち案内ボランティアの会」

会長の實^{じゆ}清隆氏を迎えて、大和川付替え

の歴史から加賀屋新田の開発と会所の魅

力について語っていただいた。普段、住

之江区全体を広くガイドをされるている

ことから、隣接する住吉区についてもふ

れ、前半は新大和川の発掘と周辺地

域の歴史との関係に言及した。

後半では、現在公園（緑地）の中の一部

として管理されている加賀屋新田会所の

見所を、スクリーンに映し出された画像

と資料を用い、現地さながらに案内をさ

れた。「冠木門」「鳳鳴亭」「明霞亭」など、

とにかく当時の豪商の文化力の高さと粋

な精神が随所に見られ、「庭園は他の会所

と比べても実にすばらしい」と言われる

實氏の言葉通りである。ぜひ一度は訪れ

てみたい新田会所のひとつになった。



第3回

「鴻池新田会所」

〜鴻池新田の災害〜

連続講座の最終回は、

東大阪市の鴻池新田会所

より松田順一郎氏を講師

に迎え、「鴻池新田の災害」という切り

口から話していただいた。松田氏には

二〇一一年にも「鴻池新田災害略史」の

テーマで講演をいただき、今回はより

ミクロな視点の内容で、歴史年表を基に

した鴻池新田の歴史はそのまま河内の

災害史にもなり得るものであった。

講座は、鴻池新田を中心に、大和川の

付替え工事から明治時代の初め頃まで話

が進められ、現代にたどり着くまでには

もう一回分の講座の時間が必要なほど広

がりをもった。最終の質疑応答まで松田

氏は細部の情報をひとつずつ丁寧に説明

し、文化財としての会所の改修や管理運

営についても言及した。それぞれの会所

の規模や性格は異なり、四会所となった

現在もなおその在り様が違っていること

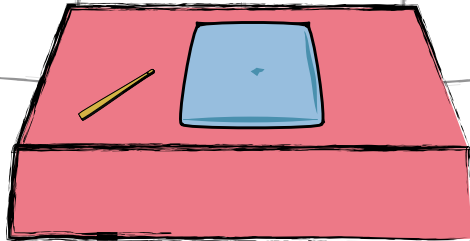
に、本講座で改めて気付かされることと

なった。



旧家で楽しむ 落語会

2017年
2月26日(日)



満員御礼!

今年2月26日(日)に開催した「旧家で楽しむ落語会」は、すっかりお馴染みとなりました。素人寄席・天満天神の会に出演していただくようになってから、今回で4年目となりました。毎年、出演者が変わり、今回は定員40名を超える参加者に恵まれ、会場には地元ケーブルテレビ局も取材に來られるなど、まさに「満員御礼」の状態でした。

そんな熱気の中、今回も4名の方々次々と持ち前のネタを披露し、会場をさらに沸かせました。会場には小さなお子さんを連れた親子の姿も見られ、とても楽しそうな様子でした。また会場の雰囲気はアットホームで、記録係のスタッフもつい仕事を忘れそうになりながら一緒に楽しむことができました。が、今回はちょっとしたハプニングも…。出演者の方々曰く、「めったに無いことです」という状況は、最後には笑いで吹き飛ばし、この場にいる全員にとつて忘れられない貴重な体験となりました。

ちなみに、鴻池新田会所においても、毎年天満天神の会の落語会が開催されています。会所の規模と同じく落語会の規模も違いますので、ぜひ一度、鴻池新田での「鴻池の犬」をご覧ください。



長屋門入口の様子



天満屋司郎都「胴乱の幸助」



八軒家裕次郎「壺算」



天神亭みょう雅「厩火事」



八軒家けん市「尻餅」

四会所だより (12)

鴻池新田会所の3つの入口

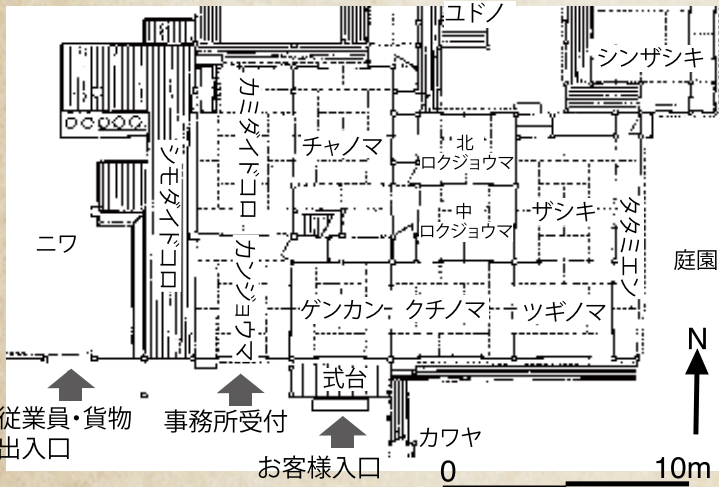
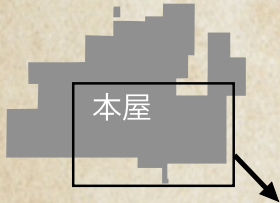
鴻池新田会所を訪れる方がたは、敷地南の表長屋門をくぐり、本屋とよばれる会所の中心になる建物に向き合います。そこには3つの部屋が開いています。たいていは靴を脱がず歩いて行ける土間(ニワ)に入っています。今ではおかまいなしですが、江戸時代にもどって建物の仕組みや役割を考えると、これは困ったことです。もし読者が、お百姓さんで綿花を売って得たお金の一部を税金として納めに来たのでしたら、真ん中のカンジョウマという部屋の上り口で人を呼んでください。そこが事務所受付です(ただし今はだれもいません)。大坂の代官所や幕府からやって来たお役人様とか隣村の庄屋様でしたら、右側のゲンカンに上がっていただかねばなりません。客はそこからさらに右手に、クチノマ、ツギノマ、ザシキに進み、これらに面して広がる庭を楽しめます。これらの北西

側に接した北と中のロクジョウマ、南北にそれぞれとりついたカワヤとユドノを合わせて接待の主要な空間が画然と仕組まれています。

江戸時代の後半には百姓家、町家のザシキの華美を規制するお触れが幕府や藩によつてしばしば出されるほど、接客重視の趣向が建物を支配してゆきますが、「おも

てなし」をしくじるとどんなひどい目に遭うかわからない時代だったのかもしれない。

ザシキとツギノマは茶会や歴史講座などの催しに使っています。春・夏は左記のような催しを予定しております。詳しくはホームページをご覧ください。鴻池新田会所にお問い合わせください。



鴻池新田会所本屋の南面(写真)と南東部の間取図

3つの入口の正式な名称はいまのところ不明です。
川柳をひとつ・侍のコスプレ嬢、式台で見栄を張り。

- 5月3日(水・祝) 野点
- 5月7日(日) 蓄音器コンサートと聴きくらベジャズ・ライブ
- 5月14日(日) 歴史講座「与謝野晶子と大和川」講師:黒田伊彦氏
- 5月21日(日) 歴史講座「盾津地域からみた大和川つけかえ」
講師:河内晴彦氏
- 6月17日(土)~7月17日(月・祝) コーナー展示「手焙りいろいろ」
<http://www.bunkazaishisetsu.or.jp/kaisho/> 電話:06-6745-6409



(鴻池新田会所 松田順一郎)

なにわの伝統野菜 栽培日記

No.32



伝統野菜の難波葱(なんばねぎ)のネギボウズ

【またまたトウモロコシ】

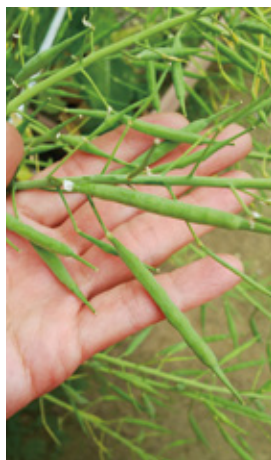
「惨敗」の田辺大根フェスタから早や4カ月。また今年も夏野菜の種をまく時期が近づいてきた。学年が上がり、習い事などで忙しくなった大きな子どもたちが抜け、ぐっと年齢層が下がってしまった今回の畑メンバー。幼稚園児から小学校低学年がメインだ。申し込み多数のため今回も抽選となったが、新しい面々も加わり、ますます賑やかになりそう。

昨年の「圧勝」に味をしめ、今回も引き続きトウモロコシに挑戦することにした。同様に2月に種をまき、ビニールで温室を作つての早撒き「抑制栽培」。

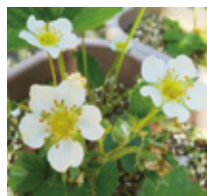
実は昨年は品種の問題でお味のほうはイマイチ…。なので今回は超美味しい生食用のものを選んでみた。畑で収穫、その場でガブリ！
北海道もビックリな美味しさになる予定だ。



美味しい予定のトウモロコシ



天王寺かぶらの種



イチゴの花



田辺大根の花

【堪忍してえなあ〜】

今年の種まき用に選別し、良いものだけを大事に残しておいた黒門越瓜の種が、ある日突然消えた。

消えたというより、肝心の中身だけがなくなり、スカスカの殻だけになっていた。犯人はネズミ。

長年、ここ旧植田家住宅で畑をしているが、こんなことは今までに一度もなく、初めての事。全くもってそんな予定はなかった為、選別して余った種は全て処分し、もう手元には一粒も残っていない。…最悪だ。

結局、黒門越瓜の発祥の地、玉造稲荷神社の宮司さんにお願ひして、特別に種を分けて頂ける事になり、何とか助かったのだが、棚の中にきちんとしておいたのに、
ほんま堪忍してえなあ〜。



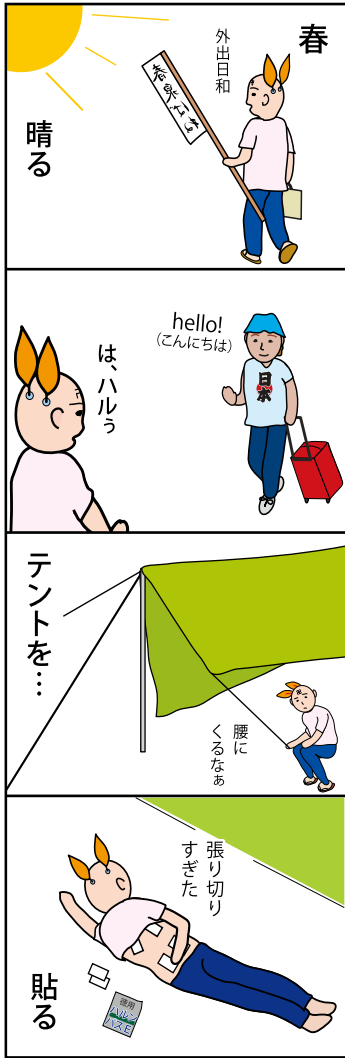
頂いた越瓜の種

…この際、内緒で猫でも飼ってみようか(笑)



マンジーくん

安富士 暁



桃栗三年柿八年、 植田家住宅九年目！

2009年5月より一般公開された安中新田会所跡旧植田家住宅は今年度で開館9年目を迎え、指定管理者制度による指定管理者選定を経て、このたびNPO法人HICALIの管理運営業務も9年目に入りました。

人生に例えると、オギャーと産声をあげて産まれた赤ん坊が歩きはじめ、言葉を覚え、周りの人たちに支えられながら沢山のことを覚え、小学校に入学、そして小学2年生になりました。これから心身ともにどんどんと成長して行くところです。

私たちはこの8年間、展示や講座・講演会、イベントなど、参加される方々の楽しみや糧

となるように様々なことに取り組んできました。学校や地域の方々など多くの方々を支えられ、沢山の方に喜んで利用していただける施設として根付いてきたことを心より感謝し、御礼を申し上げます。

今回、社会状況や市の財政縮小の中で示された厳しい条件下での指定管理3期目の指定を受けました。決してたじろがず、そのことをバネに、皆で知恵を出し合い、工夫をしながら、より多くの方々に愛される施設を目指すこと。そして郷土の歴史、文化の普及・啓発と市民文化の向上に努力して参ります。

今後とも、皆様の温かいご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

指定管理者NPO法人HICALI

理事長 澤田知英子

開館9年目！

落穂拾い

― 今東光の董風 ― (二十六)

文・伊東健

昨年九月に東弓削遺跡の発掘調査現場から由義寺ゆかりのものと推定される古代瓦が大量に発掘されたことに続き、今年の二月には由義寺の塔の土台部分にあたる基壇跡が確認されたことが発表され、現地説明会も大盛況だったようです。基壇の大きさは大安寺の七重塔に匹敵すること、もしかすると高さ七十mにもなるかもしれないというニュース記事もありました。高安山を背景にして荘厳な規模で最新鋭の技術が駆使された首都級の都市が、奈良時代の八尾市に展開されていたのかと思いつつ、故郷に錦を飾ったこととなった道鏡がどのような感慨を抱いたことかと改めて気になりました。

そんな疑問に熱く答えてくれるのが、道鏡への思いを凝縮させた今東光屈指の力作「弓削道鏡」です。小説は昭和三十四(一九五九)年一月から『オール讀物』誌上でちょうど一年間連載され、翌年に文藝春秋新社より単行本と

して刊行されました。この中で東光は、道鏡と孝謙(称徳)女帝の会話として次のような場面を描きました。

「禅師公よ。そなたの氏寺の弓削寺に何か一つ足らぬものがあると思召さぬか」

(中略)

「弓削寺に足らぬものは五重塔であります」

「それは」

「無理と仰せられますか」

「過ぎたるは及ばざるがごとく、弓削族の氏寺としては五重塔はあまりに贅沢で御座ります」

「わたくしが造りましょう」

「ああ。陛下・・・」

道鏡は感極まって泣くばかりであった。

藤原氏、橘氏を以て漸く氏寺を持っているに過ぎない。臣下の身分として氏寺を持つさえあるに弓削氏もまた氏寺を持ったことを天下は唇を反らして嘲った。

それなのに五重塔を建立するとは何たる果報であろうか。

(中略)

弓削行宮が由義宮と仰せられた時に既に早く女帝の御心には、平城京に対して西京の御

構想を抱かされていたものだろうか。

京職とは左右に分れ、京城を分管し、司法警察以下の京中の庶政を掌る職である。河内職は京職に準じて任ぜられたので、諸民はいずれこの河内野の一角に一大京城が出現するだろうと想像した。由義宮の大土木を起すために、河内の名門の子弟に土踏みをさせ、平城京の先例に準じて西京に入る者には宅地を給すると仰せ出された。』

(昭和三十五年二月二十日文藝春秋新社発行より)

今回の発掘成果は、東光の創作意欲を刺激した幻の都に具体的なイメージを与えてくれるものでした。これを機会にぜひ、東光が描いた「弓削道鏡」を読み直してみませんか。



東弓削遺跡第26次調査
2016年9月18日 現地説明会の様子

【2017年5月～7月】

旧植田家住宅のご案内

今後の展示・企画

毎月第1土曜日は「河内木綿体験(5組限定)」
 // 第3日曜日は「むかし遊びの日」を開催!

展示

2017年

◎4月28日(金)～7月10日(月)

企画展「植田家の祈りと願い」

※5/5(祝金) ギャラリートーク(学芸員の展示解説)
 14時から20分程

◎7月14日(金)～8月31日(木)

通常展「大和川付替えと

植田家の収蔵品～資料編～」

展示、イベント等のお知らせは
 ホームページもご覧ください
<http://kyu-uedakejutaku.jp/>



企画

(詳しくはお問い合わせください)

◎5月

5日(日) 旧家で記念撮影～こどもの日～ 開館時間中

※4/29(祝・土)～5/21(日)の期間中 開催

13日(土) 講座「由義寺と八尾の歴史」 14時～15時30分
 (講師:樋口めぐみ氏)

// 植松灯籠の日(夜間開館) 18時～20時30分 ※無料

◎6月

18日(日) 旧家で芸能・伝統文化～講談とのござり音楽の会～ 14時～

◎7月

28日(金) こどもガイド体験講座(夏) 13時30分～

中旬～9月上旬

納涼企画「冷やし旧家」開催予定



休館日カレンダー

■ = 休館日

□ はイベント開催日

5 May

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

6 June

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

7 July

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

●開館時間:午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

●休館日:火曜日・祝日の翌日・年末年始
 (詳しくは休館日カレンダーをご覧ください)

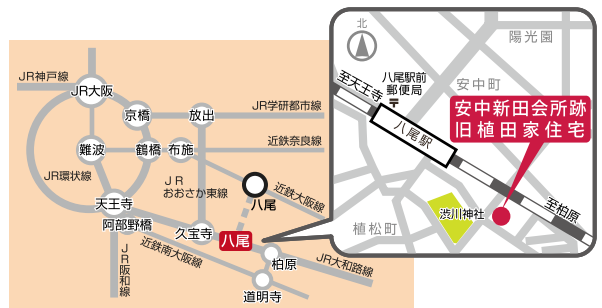
●入館料:一般200円(団体20人以上で100円)
 高校・大学生100円(団体50円)
 ※中学生以下、身体障がい者手帳等の所持者
 および介助者は無料

●お問い合わせ・見学のご相談 ※団体予約で案内も行なっています
 〒581-0084 大阪府八尾市植松町1-1-25

TEL/FAX:072-992-5311

E-mail: info@kyu-uedakejutaku.jp

※当施設には駐車場はありません。車での来館はご遠慮ください。



◇JR大和路線「八尾」駅下車、南出口より東へ徒歩約3分

◇近鉄大阪線「八尾」駅から近鉄バス藤井寺駅前

JR八尾駅前バス停下車、南東へ徒歩約5分

本当の幸せって？ 本当の豊かさとは？

モノや情報があふれ、それを大量に消費する社会。
人々の価値観は変わり続け、本当に大切なものは・・・

そのような中、人々の考え方は「利己から利他へ」「古き良きものを見つめ直す」のように、
人とのつながり、過去と未来のつながり、社会とのつながりを求めるよう
変化してきているのではないのでしょうか？

私たち、株式会社シーズクリエイトは情報を提供する立場にあります。
その情報を活かし、地域のヒト・コト・モノとネットワークを築き、
そのつなぎ役を担うことで新たなコミュニティを創造し、
地域経済を活性化させたいと思っています。

